

## けいじばん

- ちば里山センターイベント；別紙の通りお知らせします。(11/13 活動参加会員及びメール会員には周知済)。11月26日の安全講習会には出来るだけ参加されるようお勧めします。(11月参加困難な方は1・2月受講可)
- 次回活動日のご案内；12月3日(土)4日(日)、3日は9時40分、4日は8時40分森林館駐車場集合。主な活動メニューは安全対策伐採作業方法改訂版の説明・実演、巨木林整備(伐採)、きのこ調査、植物調査等。携帯品は弁当(宿泊者の弁当は会で準備)、飲み物、お椀、安全手帳、伐採作業安全マニュアル(17年3月版)、鋸、鉋、ヘルメット、チェーンソー持参者はゴーグル、耳栓、手袋。リース作り希望者は次頁末尾参照。
- 忘年会のご案内；12月3日(土)18時から20時30分迄。於国民宿舎「清和」。会費宿泊費込み約1万円、宿泊無し約5千円。参加申込は11月21日(月)迄上記Eメール又は電話で受け付けます。年に一度の親睦行事です、奮ってご参加下さい。参加申込後のキャンセル及び追加申込は11月30日までにお願いします。

## かつどうのきろく

11月13日(日)晴 参加会員17名、吉原 洋先生

- 安全対策の実地検分(班)；9月11日に起きた傷害事故究明対策委員会の報告を受け、安全な伐採方法について12月の作業予定地域で実地検分を行った。検分を行ったのは対策委員の長村、伊藤に加えて坂本・鈴木・苅米会員の5名。豊英島での伐採作業は原則的に直径15cm以下の小径木とすることや、合図系の現場指揮権を強化すること、合図の方法、伐採方法や造材作業、掛木処理の方法などについて検討・確認した。この結果は12月の活動日に実演を交えて会員に周知徹底する。

- 植物調査(班)；ツルリンドウの花と実に感動、新確認あり充実した観察  
甲斐、石井、久我の女性会員はじめ多数参加。木々は色づき、天気にも恵まれ前回までの鬱蒼とした森の緑とはうってかわって、すっかり明るくなり、早や森は冬の準備。まずはこの時期にしかみられない花、リンドウの紫色が目をつけた。これなら、ツルリンドウもあるだろうと期待がひろがる。ついに午後に発見、その実の赤の鮮やかなこと、女性陣の歓声が上がり、この感動のために千年の森にきているという実感。リュウノウギク、ノコンギク、キヨスミギク、ヤマシロギクなどの菊の仲間が競い合って咲き、ヤブムラサキのかわいい粒の紫も目にしみた。カンアオイの花も落ち葉の陰でひっそり花をつけ始めていた。サンショウ・カラスザンショウ・イヌザンショウが一カ所で観察できたのもよかった。崖を好む種類を求めて島の北東側にゆきヒメウツギ、マルバウツギの確認も収穫。クマヤナギ、アズマイバラ(この時期の葉柄脇の托葉で確認)など新たな確認もあった。

- きのこ調査(班)；植菌のシイタケは昨年よりも生育遅く、僅か200g、ナメコ・ヌメリシギタケはゼロ、ムキタケ1、250g、昨年収穫適期を逸し全滅したクリタケは豊作で2、210g。秤量省略のヒラタケは5kg近い大豊作。食用自生きのこではアカモミタケが本日の主役。昼食時はクリタケ、シイタケ、アカモミタケたっぷり具沢山のきのこ汁、ムキタケは炭火焼き、残るムキタケ・クリタケ・ヒラタケは夕食用お土産に。

- 伐採木選定；12月3・4日伐採する巨木林東区域の選木を行った。主として胸高直径15センチ以下の常緑・針葉樹小径木100本近くを選定し黄色テープ。同時にシンボルツリー以外の残したい樹(伐採禁止木)にピンクのテープ。12月活動日には黄色テープの木を伐採。

- コナラ更新林調査(班)03年秋伐採コナラ更新林の萌芽・実生生育調査。調査結果はホームページに。



吉原節に聴き入る植物調査班



03年植菌のクリタケ

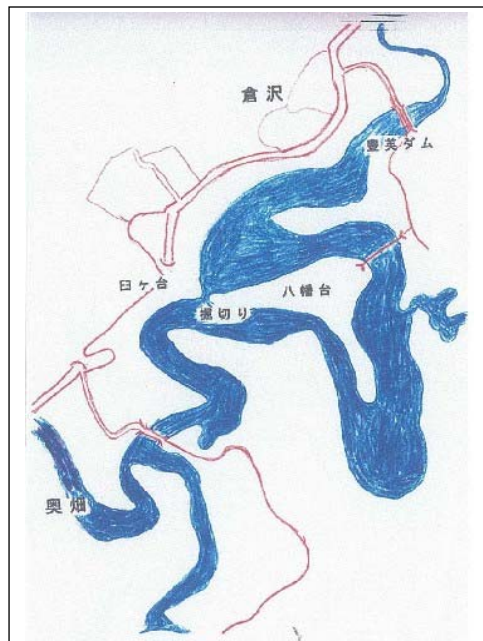


豊英島自生のアカモミタケ

この地は現在「豊英島」と称しますが、昭和44年に豊英ダムができるまでは「白ケ台」と陸続きで「八幡台」と呼ばれていました。そして、周辺は「川回し」で造られた水田に囲まれていました。



吉原 洋先生  
日本自然保護協会自然観察指導員。元君津市立小学校長。君津市史自然編植物関係執筆。千葉県中央博物館や各地の公民館が開催する自然観察会の講師として活躍中。



地図の南(下)が上流である。かつての八幡台がダム湖に囲まれた豊英島(通称)となった。⇒の場所が「河回し」でショートカットした掘切りである。

この「川回し」での水田開発は口碑・その他の資料によると、宝暦年代(1751~1761)当時この地の名主であった小泉儀右衛門(現当主・小泉博氏)宅に安房から来訪した里見倉沢(サトミソウタク)が仕えました。その頃この地域は農耕地が少なく新田開発は名主の重大な課題でした。

その開発候補として「八幡台」を取巻くように迂回している古川(小糸川)を「白ケ台」と「八幡台」間の狭い部分を分割り、流れをショートカットする案が挙げられました。

倉沢(ソウタク)は名主代理・総世話役としてこの工事を終え、さらに水田開発を進め二町歩(2<sup>町</sup>歩)余の水田が完成しました。なお宝暦12年(1762)に名主・小泉伝重郎から代官・根岸又左衛門宛に再開発の裁許を仰ぐ嘆願書を提出したことが記録されています。

村人たちは、この里見倉沢(サトミソウタク)の働きに報いるためこの地を倉沢村(クラサワムラ)と名付けたと伝えられています。

倉沢(ソウタク)は「八幡台」に居宅を構え一隅に井戸を掘りました。

(その跡は現在も残っています。)台地には信仰していた八幡様を祀りました。(これが八幡台の由来?)後に江戸・上野御徒町に住まいを移し文化13年にその生涯を閉じました。

小泉家では倉沢(ソウタク)の分骨を同家の墓地に埋葬し、仏壇に位牌が祀られています。(編集注:小泉家里見倉沢分骨碑に「文化十三年十一月没里見倉沢」とあります。)

その後「八幡台」は市宿ムラの野村家(現・断絶)に移り、さらに宇津木家、そして豊英旧倉沢の真板家(現当主・真板六弥氏)に移りましたが小泉家→野村家→宇津木家への譲渡の詳しい経緯は解っていません。

宇津木家から真板家への譲渡については、真板家の墓地に「八幡山の由来」と記された石碑があります。(写真右)



真板家石碑「八幡山の由来」  
…三島に山を持ちながら行くことも出来ないのだから真板家は山を大切にす家と聞いているので是非譲りたい」とある

数年前(編集者注:平成8年)清和の森を守ろうという観点から千葉県が真板家より譲り受けて現在に至っております。

豊英ダムができるまでは「白ケ台」と「八幡台」間のショートカット部分—掘切り(ホッキリ)—からは高さ4~5mの滝が水音高く落下していました。また「八幡台」を取り巻く古川は大部分が水田でした。

なお、明治9年倉沢村と奥畑村は合併して豊英村となり、明治22年の町村制施行により三島村豊英区となる。昭和30年秋元村と三島村が合併し清和村誕生。昭和45年5ヶ町村合併、君津町となる。昭和46年市制施行。

リース作りを12月森林整備後に実施します。希望の方は、剪定はさみ、木工ボンド、マイナスドライバー、材料を持参してください。材料のツルは現地では採取できませんので、クズ、フジなどを10メートル程度持参ください。飾る物は、モミ、ヒイラギ等は森林整備(除伐)したものを利用しますが、その他ツルウメモドキ(黄)、サルトリイバラ(赤)などが手に入れば持参ください。ドングリやマツボックリは別途用意します。